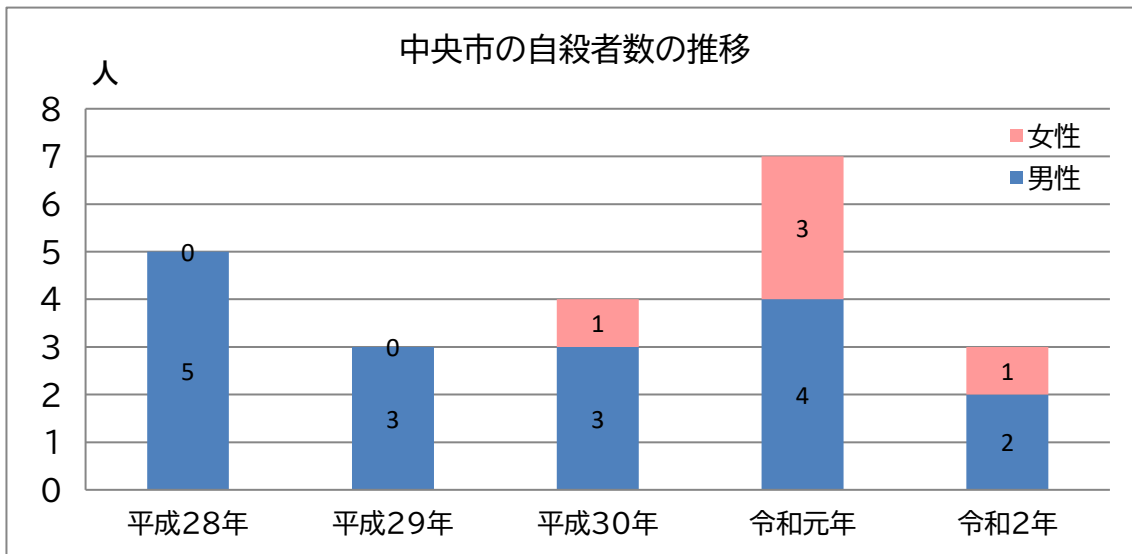


## 4 現状と課題

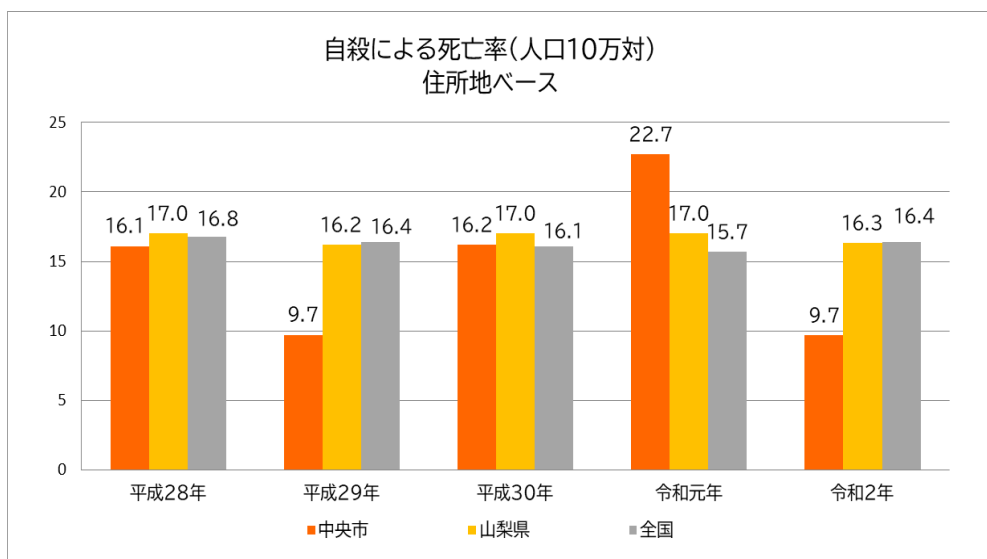
### (1) 自殺者数の推移



\*出典：自殺総合対策推進センターの「地域自殺実態プロファイル」

本市の5年間ににおける自殺者数は合計22人(男性17人、女性5人)であり男性が77%を占めています。

### (2) 自殺による死亡率

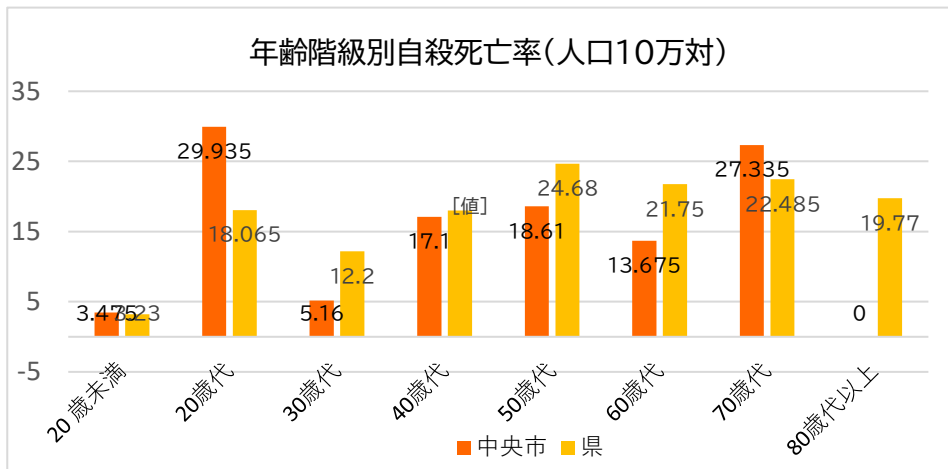


\*出典：自殺総合対策推進センターの「地域自殺実態プロファイル」

市の自殺死亡率は令和元年度以外山梨県や国の死亡率より低くなっています。

### (3) 自殺の概要

#### ① 5年間ににおける年齢階級別自殺死亡率（平成28年～令和2年）



\*出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール」

本市は20歳未満、20歳代、70歳代の自殺死亡率が県より高い状況です。特に、20歳代の自殺死亡率が他の年代に比べて高く、課題となっています。

#### ② 自殺者の特性

自殺者の特性上位5区分	自殺者数 (10万対)	割合	自殺死亡率 (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路*
1位:男性40～59歳有職同居	6	27.30%	35.4	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
2位:男性20～39歳無職同居	3	13.60%	132.3	ひきこもり+家族間の不和→孤立→自殺/就職失将来悲観→うつ状態→自殺
3位:女性60歳以上無職同居	3	13.60%	18.5	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4位:男性20～39歳有職独居	2	9.10%	75.5	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺/ (被虐待・高校中退)非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺
5位:男性60歳以上無職同居	2	9.10%	22.1	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺

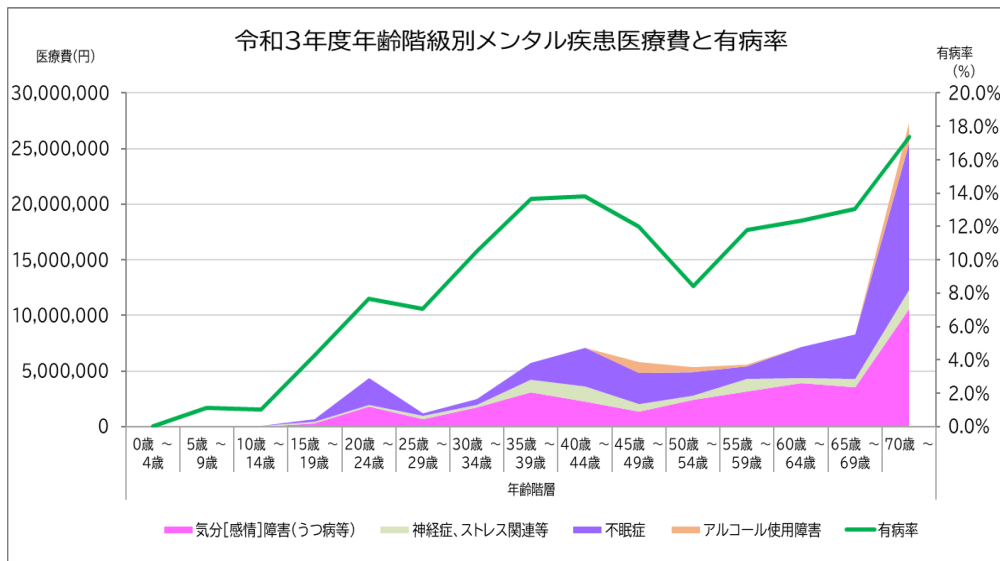
出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール」

\*背景にある自殺の危機経路は、ライフリンク「自殺実態白書2013」を参考に推定したものです。自殺者の特性別にみて代表的と考えられる経路の一例を示しています。

自殺総合対策推進センターの「地域自殺実態プロフィール」より本市の自殺死亡率が高い属性(性別×年齢×職業の有無別×同居人の有無)の上位5区分を示しています。

属性情報から、市において推奨される重点課題として、「子ども・若者」「無職者・失業者」「生活困窮者」に対する取り組みが挙げられています。

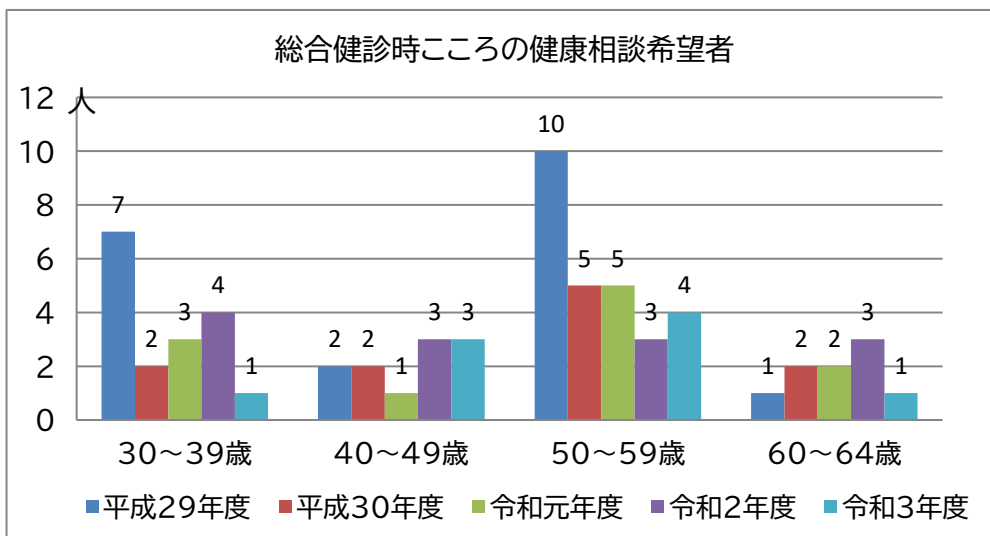
### ③ 年齢階級別メンタルヘルス疾患医療費と有病率



出典：(株)データホライズンによるポテンシャル分析

気分[感情]障害(うつ病等)が20歳～24歳に多く不眠症も増加がみられます。有病率も急激に増えている状況です。

### ④ 総合健診 ストレスチェック後のこころの健康相談者



\*各年市総合健診における「こころの健康チェック」集計

総合健診において、働き盛り層(30～64歳)に対してこころの健康ストレスチェックを実施しています。身体健康チェックとともに、こころの健康チェックを行い、抑うつ傾向と判断された方で、個別にこころの健康相談を希望した方全員に連絡し声をかけ、カウンセリングが必要な方は、保健師の相談や臨床心理士による面談につなげています。個別相談の希望者は全体的に50代が多く、その相談内容については、仕事のこと、職場の人間関係、家族のこと、子どもとの関係などでした。また、令和3年度に実施した総合健診におけるストレスチェックでは、受診者の概ね16.8%が抑うつ傾向があり、その中で個別相談を希望した方は9人でした。コロナ禍において、社会とのつながりや人との関りが稀薄化する中、悩みを抱える者を受け止め・支援する取り組みが求められています。

⑤ 乳幼児健診における母親のこころの健康チェック(GHQ検査)

	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	7点以上の該当者 受診者	割合	7点以上の該当者 受診者	割合	7点以上の該当者 受診者	割合
4か月健診	20人/167人	12.3%	24人/131人	18.3%	17人/196人	8.7%
12カ月健診	27人/170人	15.9%	19人/172人	11.0%	26人/196人	13.3%
1歳6か月児健診	25人/196人	12.6%	17人/172人	9.8%	27人/176人	15.3%
3歳児健診	31人/199人	15.6%	30人/225人	13.3%	32人/227人	14.1%

\*GHQ精神健康調査:うつ傾向がわかる質問紙法における検査

乳幼児健診において「母親のこころの健康チェック」を実施しており、チェック項目が7点以上該当した方については、リフレッシュカウンセリングを行い、うつ予防に早期から介入・支援をしています。カウンセリングにおける主な相談内容は、育児へのストレス、子どもの発達の悩み、夫婦関係、家族のことなどで、毎年100件ほどの相談があります。

⑥ 新型コロナウイルス感染拡大の影響

国の自殺者の数は、11年ぶりに増加に転じる中、女性や子どもの自殺が増えたという結果が報告されています。自殺者が増加した要因には、新型コロナウイルスの感染拡大により人との接触機会が減ったことで孤立や孤独が生じ、それが長期化したためといわれています。